



成果指標				
成果指標	利用者数			
指標設定の考え方	本事業は、利用者を対象とする支援事業であることから利用者の数を指標とする。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目 標	350	250	250	250
実 績	240	293	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	これまで、松前町に業務委託により事業を行ってきたが、平成27年度市内の医療機関の協力を得ることができ、平成28年度から市の直営の施設において事業実施が可能となった。事業実施に当たっては、周知啓発に努めていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	子育て中の保護者から伊予市での病児・病後児保育の実施希望が望まれていた。連携医療機関との調整もあり、平成28年度から市内において事業の実施となった。この事業は、全国初のお迎えサービス付の病児・病後児保育であり、利用者の増加が見込まれる。早急に、定員数の見直しを検討する必要があると認識している。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。
意見、課題	H28年度から本市で独自に事業を実施することとなり、お迎えサービスの実施など利用者の大幅増が見込まれる。今後は定数増も検討し、制度の一層の充実を図る。なお、国・県からの補助を強く求めていく必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

さらに重点化する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ、さらに重点化すること。